



Title	第2報 多良間村の肉用山羊における在来山羊の飼養実態 (多良間村における肉用山羊の生産,流通に関する総合的 研究)(生物生産学科)
Author(s)	大城, 政一; 吉田, 茂
Citation	琉球大学農学部学術報告 = The Science Bulletin of the Faculty of Agriculture. University of the Ryukyus(39): 33-37
Issue Date	1992-12-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/3807">http://hdl.handle.net/20.500.12000/3807</a>
Rights	

# 多良間村における肉用山羊の生産、流通に関する総合的研究\*

## 第2報 多良間村の肉用山羊における在来山羊の飼養実態

大城政一\*\*・吉田 茂\*\*

Seiich OSHIRO and Shigeru YOSHIDA : Studies on Goat in Tarama Son

(2) Studies on an Ordinary Goat raising in Tarama Son

### Summary

The objectives of the studies were to analyze an ordinary goat raising in Tarama Son.

The number of goat raised in Okinawa prefecture and Tarama Son has decreased in recent years.

Only 8 per cents of the total goat raised in Tarama Son, a remote area, was an ordinary goat. From this figure, in Okinawa prefecture, an ordinary goat will become extinct in the near future.

### 緒 言

沖縄肉用山羊の体型等<sup>5)</sup>及び在来型山羊の血液成分<sup>1)</sup>が報告されている。また、沖縄県における山羊の飼養実態等についての調査も1978年に新城ら<sup>4)</sup>によって報告されている。そこで、本研究は沖縄県内における各市町村の山羊の飼養状況を明らかにし、特に、山羊の飼育が盛んであるとされている多良間村における山羊の飼養実態と在来型山羊の生息実態を調査した。

### 方 法

沖縄県内における各市町村別山羊の飼養頭数の調査は各市町村における山羊の飼養頭数<sup>3)</sup>、全県下での割合、各地域の割合、土地面積<sup>2)</sup>及び土地面積当りの山羊の飼養頭数を調査した。また、多良間村における山羊飼養農家32戸を調査した。調査項目は成山羊の雌・雄別頭数、成山羊の雌・雄別における在来型山羊の頭数、子山羊頭数の雌・雄別頭数、間性山羊の飼養頭数及び山羊の飼養頭数を調査した。在来山羊の鑑定は新城ら<sup>4)</sup>の方法に従った。

\* 本研究報告は1990年度宇流麻学術研究助成基金による研究成果である。

\*\* 琉球大学農学部生物生産学科

## 結 果

表1に沖縄県内の市町村別山羊飼養頭数を示す

表1 市町村別山羊の飼養頭数

地域別	市町村	山羊 (頭数)	全県の割合 (%)	地域の割合 (%)	土地面積 km <sup>2</sup>	山羊/土地面積 (頭/km <sup>2</sup> )
沖縄県 本島 北部 地域	国頭村	285	1.7	5.7	194.80	1.5
	東村	49	0.3	1.0	81.76	0.6
	今帰仁村	1,258	7.3	25.2	39.85	13.6
	本部町	715	4.2	14.3	54.25	13.8
	名護市	1,164	6.8	23.4	210.14	5.5
	恩納村	291	1.7	5.8	50.66	5.7
	宜野座村	421	2.4	8.5	31.27	13.6
	金武町	343	2.0	6.9	37.56	9.1
	伊江村	54	0.3	1.1	22.86	2.4
	伊平屋村	107	0.6	2.1	21.68	4.9
	伊是名村	50	0.3	1.0	15.18	3.3
	計	4,984	29.0	100.0	823.11	6.1
沖縄県 本島 中部 地域	石川市	227	1.3	6.7	21.03	10.8
	与那城村	160	0.9	4.7	18.64	8.6
	勝連村	432	2.5	12.7	12.67	34.0
	具志川市	638	3.7	18.8	30.57	20.9
	沖繩市	321	1.9	9.5	48.23	6.7
	読谷村	464	2.7	13.7	35.17	13.2
	嘉手納町	79	0.5	2.3	15.04	5.3
	北谷町	75	0.4	2.2	13.13	5.7
	北中城村	162	0.9	4.8	11.44	14.2
	中城村	327	1.9	9.7	15.44	21.2
	宜野湾市	205	1.2	6.1	19.37	10.6
	西原町	133	0.8	3.9	15.24	8.7
	浦添市	163	1.0	4.9	18.28	8.9
	計	3,385	19.7	100.0	274.25	12.3
沖縄県 本島 南部 地域	那覇市	95	0.6	2.3	56.50	4.6
	豊見城村	167	1.0	4.7		
	糸満市	365	2.1	8.7	45.76	8.0
	東風平町	242	1.4	5.8	14.80	16.4
	具志頭村	207	1.2	4.9	12.08	17.1
	玉城村	242	1.4	5.8	16.83	14.4
	知念村	98	0.6	2.3	9.72	10.1
	佐敷町	240	1.4	5.7	10.60	22.6
	与那原町	373	2.2	8.9	4.26	87.6
	大里村	274	1.6	6.4	12.35	22.2
	南風原町	238	1.4	5.6	10.71	22.2
	仲里村	210	1.2	4.9	37.73	5.6
	具志川村	480	2.8	11.4	25.48	18.8
	渡嘉敷村	138	0.8	3.3	19.18	7.2
座間味村	145	0.8	3.4	16.74	8.7	
粟国村	92	0.5	2.1	7.62	12.1	
渡名喜村	11	0.1	0.3	3.74	2.9	
南大東村	359	2.1	8.5	30.57	11.7	
北大東村	216	1.2	5.1	13.10	16.5	
	計	4,192	24.4	100.0	347.77	12.1
宮古 地域	平良市	693	4.6	24.6	64.54	10.7
	城辺町	291	1.7	10.3	57.60	5.1
	下地町	116	0.6	4.1	23.39	5.0
	上野村	176	0.9	6.2	18.96	9.3
	伊良部町	408	2.3	14.5	39.17	10.4
	多良間村	1,135	6.5	40.3	21.89	51.9
	計	2,819	16.4	100.0	225.53	12.5
八重 山 地域	石垣市	630	3.7	34.7	228.64	2.8
	竹富町	1,050	6.1	57.8	333.94	3.1
	与那国町	137	0.8	7.5	28.88	4.7
	計	1,817	10.6	100.0	591.46	3.1
	合計	17,197	100.0		2,262.32	7.6

表1に示す通り沖縄県内の市町村のすべてにおいて山羊が飼養されている。飼養頭数を地域別に見ると、沖縄県本島北部地域に29%と1番多い。市町村別に見てみると、沖縄県本島北部地域の今帰仁村が7.3%で、同地域の名護市が6.8%で、宮古地域の多良間村が6.5%で、八重山地域の竹富町が6.1%で、宮古地域の平良市が4.6%で、沖縄県内の山羊飼養頭数の多い上位5の市町村（沖縄県は53市町村）である。

宮古地域の多良間村が地域の割合で40.3%と顕著に高かった。山羊飼育において多良間村は土地面積当りの飼養頭数が51.9頭/km<sup>2</sup>と著しく高い値を示した。この単位面積当りの飼養頭数は沖縄県本島南部地域における与那原町の87.6頭/km<sup>2</sup>に次ぐ多い頭数であった。その次の3位に沖縄県本島中部地域の勝連村が34.0頭/km<sup>2</sup>、4位に沖縄県本島北部地域の今帰仁村が31.6頭/km<sup>2</sup>、5位が同南部地域の佐敷町が22.6頭/km<sup>2</sup>を示し、この5市町村が土地面積当りの飼養頭数の多い市町村であった。

表2に多良間村における山羊の飼養頭数、在来型山羊の頭数及び間性山羊について示す。

多良間村における調査農家は32戸で、198頭の山羊について調査を行った。同村内の農家は1頭から18頭の山羊を飼養しており、成雌山羊が120頭、成雄山羊が28頭であった。その内の在来型山羊と認められた山羊は成雌山羊が11頭と成雄山羊が4頭の合計15頭であった。子山羊は雌が26頭と雄が22頭で、合計48頭であった。また、間性山羊（写真1）が2頭確認できた。

表2 多良間村における山羊の飼養頭数と在来山羊の頭数

農家	飼養頭数	成山羊 (在来山羊)				子山羊		(計)	間性
		♀	♂	♀	♂	♀	♂		
A	2	2							
B	6	2	1		3		3		
C	4	1	1			2	2		
D	14	12	2						
E	4	1			3		3		
F	1	1							
G	6	6							
H	14	11	3	1					
I	18	10	2		3	3	6		
J	5	2	1	1	1	2	2		
K	14	11	2					1	
L	3	3		1					
M	2		2						
N	3	2	1				2	2	
O	5	2	1			2	2	2	
P	7	3	2	2		2	2	2	
Q	4	2					2	2	
R	10	5	1	1		2	2	4	
S	7	3				1	2	3	
T	7	4	2			1		1	
U	8	6				1	1	2	
W	1	1							
X	3	1				2		2	
Y	6	4	1				1	1	
Z	3	2					1	1	
AA	2	1	1						
AB	6	3	2	1	1		1	1	
AC	3	2					1	1	
AD	4	3	1						
AE	9	5				2	2	4	
AF	8	5	1		1		2	2	
AG	9	4	1	4	1	3	1	4	
合計	198	120	28	11	4	26	22	48	1

## 考 察

沖縄県における山羊の生産は沖縄県内の全市町村で飼育されている。しかし、山羊の飼養頭数は沖縄県北部地域、中部地域、南部地域、宮古地域及び八重山地域の5地域において、年々減少を示し、全県総計でも年々減少を示している。日本の中で山羊肉食文化を持つ沖縄は山羊肉の消費量は年々増加し、その価格は山羊の雌雄間に差はあるが、生体1斤（600g）当り県平均(1991年度)で1,400~1,500円、今回山羊の生産と在来型山羊の調査を行った多良間村内でも1斤（600g）当り500~700円と離島としては高値を示していた。

多良間村内における山羊の飼養方法は写真2に示すような道路の側の囲いの中で、写真3に示すような黒毛和種を飼育している一角の囲いの中で、写真4に示すような住宅地の囲いの中で、写真5に示すような野原での放牧地で、写真6に示すような畑の一角の囲いの中でと実に場所を選ばずに山羊の飼育がやりやすい場所で、山羊を飼っている。

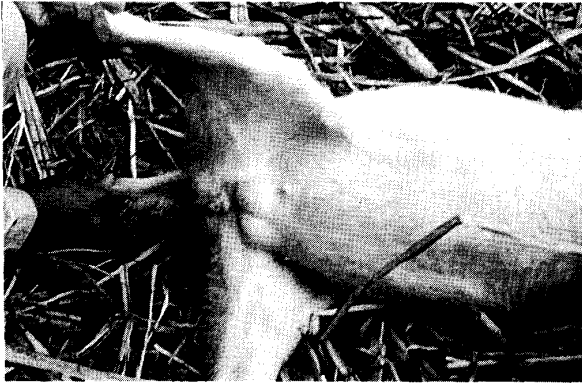


写真 1

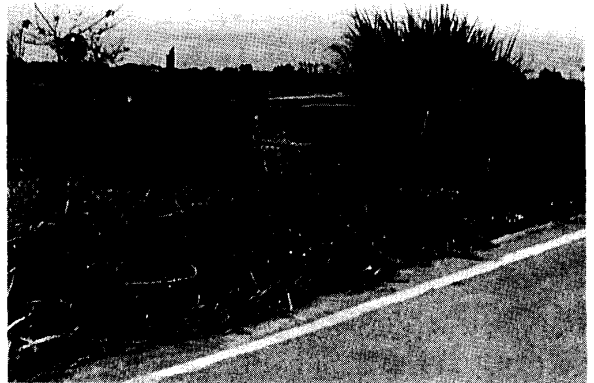


写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6

多良間村内での在来型山羊の調査は32戸の農家で198頭について行った。その内成雌山羊が120頭で成雄山羊の28頭より著しく多いことが明きらかとなった。このことは山羊を繁殖させるために雌山羊を多く残し、山羊を増殖しようとする農家の意欲が強いことを示唆している。また、子山羊雌が26頭と子山羊雄が22頭で子山羊の雌・雄比は1:0.85とほぼ1:1に近かった。間性(中性)山羊が2頭も認められ、多良間村が島であるため近親交配が進んでいるものと考えられる。在来型山羊は成山羊に認められ、成雌山羊で11頭、成雄山羊で4頭の合計15頭が確認できた。この在来型山羊の頭数は今回調査した山羊の8%であった。当初多良間村には在来山羊が多いと言われていたが、離島の多良間村で8%の在来型山羊であることは沖縄県における在来型山羊の絶滅に近いことを示唆している。

単位面積当りの山羊飼養頭数において、与那原町が87.6頭/km<sup>2</sup>と顕著に多い。このことは県外からの山羊生体の導入ならびに山羊飼育のための粗飼料（青草・茎葉等）が隣の町村からも採取が可能であることによると考えられた。一方、多良間村は黒毛和種の飼養頭数が人口（1698人）とほぼ同様の1235頭も飼育されている（昭和63年）ことも考慮すると山羊の飼養頭数は著しく多すぎると考えられる。

多良間村が離島の離島と言われる位置にありながら、なぜこのような多くの山羊（調査農家1戸当り6.2±4.1頭）が飼養されているか、明らかにできなかったが、多良間村内に居住している古老（元小学校校長）の聞き取り調査によると昔から「たらまびんざ」と呼ばれるほど山羊飼育が盛んで、かつて同村では村民による共同管理をしていたこともあり、その頃は年に1度は山羊汁を村民に振舞う行事もあったと言う。多良間村内の農家の人に「現在でもなぜ山羊が多く飼われているのか」を尋ねてもほとんどが「自家用山羊」として、各農家で数頭は飼っていると答える。多良間村内に数人の山羊商人がいるが、手間が掛かるわりにはそれほど収入にはならないと説明してくれた。

## 摘 要

沖縄県内の肉用山羊の飼養頭数調査と沖縄県内で山羊の飼養が盛んである多良間村内における山羊の飼養実態調査と在来型山羊の頭数調査を行った。

沖縄県の本島北部地域、本島中部地域、本島南部地域、宮古地域及び八重山地域の5地域及び全県総計において、沖縄肉用山羊はここ10年間年々減少を示している。

しかし、減少はしているものの単位土地面積当りの頭数が多いことは多良間村における山羊の飼養方法が多良間島の山羊の飼えるいたる場所で飼育していることである。また、多良間村内の在来型山羊が8%と少なく、離島の離島である多良間島に飼養されている在来型山羊が少ないことから、沖縄県内の在来型山羊が著しく減少し、絶滅に近い状態にあるものと推察された。

## 参考文献

- 1) 大城政一・新城明久・高橋 宏、1980  
沖縄肉用ヤギにおける在来型、一般型およびザーネン種の血液諸成分の比較、琉球大学農学報、27: 303-308
- 2) 沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部、第18次沖縄農林水産統計年報、8-9頁、1990年 那覇市
- 3) 沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部畜産課、沖縄の畜産概要、20-21、1990年 那覇市
- 4) 新城明久・宮城 満・下地孝志、1978 沖縄肉用ヤギの飼養実態、外部形態的遺伝形質および体型、日畜会報、49: 413-419
- 5) 新城明久・宮城 満・下地孝志、1978 沖縄肉用ヤギにおける体型の島嶼間比較と小型ヤギの育種の可能性、琉大農学報、25: 361-372